

Ⅲ 選択評価事項A 研究活動の状況

1 選択評価事項A 「研究活動の状況」に係る目的

看護学研究科の研究活動目的は、「保健医療福祉の要請に応え、生命と人の尊厳を重んじ、広い視野を持って主体的に学び続けられる看護専門職者の養成に繋がる、科学的専門知識・技術の教育研究をめざす。」である。

2 選択評価事項A 「研究活動の状況」の自己評価

(1) 観点ごとの分析

観点A-1-①： 研究の実施体制及び支援・推進体制が適切に整備され、機能しているか。

【観点到る状況】

研究の実施体制は、健康科学と看護学4領域の計5領域から構成されている。同組織への研究支援組織としては、羽曳野キャンパスの場合、総務グループを中心とした事務職員及び文献等の検索や収集のために羽曳野図書センターの司書などから、総合的・機能的に支援を受けている。

研究推進については、産学官連携機構から研究助成の広報・申請手続き・予算執行等、療養学習支援センターによる地域社会との連携等が、組織的に行われている。コーディネーターが定期的に羽曳野キャンパスに来学し、研究助成に関する情報提供など支援を行っている。外部研究資金獲得に関して、文部科学省の科学研究費補助金の場合には研究推進課による申請方法の説明会を行っているとともに、外部資金獲得に関するセミナーの開催なども実施している。このように研究が推進できるような施策が図られている。

研究資金の配分は、学類運営会議において原案を作成し、教授会及び看護学研究科委員会で決定する施策が実施されている。その他の支援としては、療養学習支援センターによる研究プロジェクトに対する研究・活動助成、実習施設等との共同研究助成などがある。

看護学類及び看護学研究科における独自の研究成果の発信や刊行のための組織として、入試広報部会及び紀要委員会があり、各教員の研究成果の概略をホームページなどで公開している。研究活動の状況を把握する取り組みとして、各教員は毎年度末に教員活動情報データベースに自己の研究活動の申告を実施している。教員活動情報データベースは教員の個人情報に関する部分を除いて公開を原則としている。

看護学類及び看護学研究科における研究活動の質の向上に関する取り組みとしては、大学院看護学研究科研究倫理委員会及び動物実験委員会がある。大学院看護学研究科研究倫理委員会では、教員及び学生が行なう、人を対象とする研究では、学外の有識者を含む大学院看護学研究科研究倫理委員会において、倫理審査を実施している。実験動物を用いた研究については、動物実験ガイドラインが定められ、研究計画書を動物実験委員会に提出し、審査を受けることにより実施可能となる。このように倫理的に配慮した研究を支援するための研究倫理委員会、動物実験に関する委員会等が整備され機能している。

本学の研究活動の一層の活性化を図ることを目的として、学域・学類、研究科の枠を超えた学際的あるいは分野横断型研究を進める「21世紀科学研究所」群で構成する研究組織「21世紀科学研究所センター」が設立されている。このセンターは、柔軟性と組織性を併せ持つ2つの設置形態の研究科で構成されており、地域に貢献する拠点大学としての役割と府民・府政のシンクタンク機能も担える組織として、本学の研究スタイルに新たな息吹を吹き込む存在として位置づけられている。看護教育・研究に関して同機構内に「看護経営システム研究所」「看護

教育教材開発研究センター」などがある。

【分析結果とその根拠理由】

個々の教員の自由な発想に基づく研究活動を基盤としつつ、部局横断型プロジェクト研究や戦略的な重点課題の研究を推進する 21 世紀科学研究所を設置するとともに、看護学研究科の療養学習支援センターを設置し、研究体制の整備と設備の充実を図っている。また、大学として、教員の研究成果を公開する多様なシステムを導入しており、成果公開を通して地域社会に貢献する体制も整えている。

以上のことから、研究実施・支援体制は適切に整備され、機能している。

観点A-1-②： 研究活動に関する施策が適切に定められ、実施されているか。

【観点に係る状況】

個々の教員や教員グループによる特色ある研究や質の高い研究を推進するため、「部局長裁量経費」を戦略的・重点的配分経費として措置し、教育研究環境の改善整備等に活用している。

看護学研究科の研究資金の配分は、学類運営会議において原案を作成し、教授会で決定する施策が実施されている。その他の支援としては、療養学習支援センターによる研究プロジェクトに対する研究助成（資料A-1）、科研費等外部資金獲得に向けた研究支援員派遣助成、実習施設との共同研究推進などがある（資料A-2）。また若手研究者の支援を目的とした「若手研究者シーズ育成事業」イノベーションにつながる先端分野で本学のPRにつながる研究推進を目的とした「キーププロジェクト」、女性研究者の支援を目的とした「女性研究者支援事業」、研究の大型化および学外連携推進を目的とした「科研費特定支援事業」等の学内インセンティブに積極的な申請を奨励し、獲得できるよう支援している。（資料A-3）

資料A-1 平成28～30年度 療養学習支援センター研究・活動助成一覧

	No	区分	代表者	研究課題・活動名	助成額(円)
平成28年度	1	研究	岡本双美子	家族看護に関するニーズに基づいた教育プログラムの検討とその効果（※2年計画の1年目）	550,000
	2		中村裕美子	在宅高齢者のための認知機能低下予防教室の経年参加による効果（※4年計画の3年目）	650,000
	3	活動	高 知恵	学校などにおけるセクシュアリティ教育プログラム	300,000
	4		岡崎 裕子	子どもの虐待予防にむけた研修会の開催	130,000
	5		藪下 八重	健康的に日常を生きることを応援する「ホッと&ハートの会」	247,000
	6		杉本 吉恵	保健医療従事者の腰痛予防を推進する会	324,000
	7		根来佐由美	地域における出前健康測定会 （※3年計画の2年目）	299,000
合計金額					2,500,000
平成29年度	1	研究	岡本双美子	家族看護に関するニーズに基づいた教育プログラムの検討とその効果（※2年計画の2年目）	300,000
	2		中村裕美子	在宅高齢者のための認知機能低下予防教室の経年参加による効果（※4年計画の4年目）	580,000
	3		杉本 吉恵	平成29年度 保健医療従事者の腰痛予防研修会の効果	350,000

	4	活動	山田加奈子	学校などにおけるセクシュアリティ教育プログラム	320,000		
	5		中山美由紀	家族への看護を考える会	190,000		
	6		山内 加絵	高齢者施設ケア (LTC : Long-Term Care) 研究会	30,000		
	7		岡崎 裕子	子どもの虐待予防にむけた研修会の開催	280,000		
	8		藪下 八重	健康的に日常を生きることを応援する「ホッと&ハートの会」	180,000		
	9		岡崎 裕子	ペアレンティングプログラムの実践 (前向き子育てプログラム(トリプルP)と「安心感の輪」子育てプログラム)	0		
	10		根来佐由美	地域における出前健康測定会 (※3年計画の3年目)	270,000		
	合計金額				2,500,000		
	平成30年度		1	活動	高 知恵	学校などにおけるセクシュアリティ教育プログラム	300,000
			2		中山美由紀	家族への看護を考える会	170,000
3		山内 加絵	高齢者施設のケア (LTC) 研究会		36,000		
4		根来佐由美	地域における出前健康測定会		220,000		
5		岡崎 裕子	子どもの虐待予防にむけた学習会		270,000		
6		南村二美代	健康的に日常を生きることを応援する『ホッと&ハートの会』		120,000		
7		杉本 吉恵	保健医療従事者の腰痛予防を推進する会		250,000		
8		小泉亜紀子	脳いきいき教室〜いつまでも若々しく！頭の体操		250,000		
9		井上 奈々	クリティカルケア看護実践講座		320,000		
合計金額					1,936,000		

資料A-2 平成28～30年度 奨励研究、共同研究、支援員派遣助成一覧

	No	区分	代表者	研究課題・活動名	助成額(円)
平成28年度	1	奨励研究	長畑 多代	認知症ケア専門職の感情労働の概念分析	150,000
	2		根来佐由美	地域高齢者のソーシャルネットワークの現状と身体心理的特長との関連	300,000
	3		山田加奈子	産科1次医療施設における高次医療施設への妊婦糖尿病妊婦の紹介状況および、産後の管理・支援体制に関する実態調査	300,000
	合計金額				750,000
平成29年度	1	奨励研究	根来佐由美	都市部で高度経済成長期に開発された住宅地に住む高齢者の生活と身体機能の実態	300,000
	2	奨励研究	浮舟 裕介	精神科看護師の学習ニーズに関する実態調査と支援への課題	300,000
	3	共同研究	志田 京子	アウトリーチ型看護管理支援事業(大阪モデル)の実施と評価	200,000
	4		岡本双美子	多職種連携によるグリーンケアシステムの構築に向けた時期別グリーンケアパンフレットの開発	200,000
	5		古山 美穂	家族による継続的情緒支援方策の検討	200,000

	6		山内 加絵	ユニット型特別養護老人ホームの看取りにおける看護・介護職との連携のための教育プログラムの検討	200,000
	合計金額				1,400,000
平成30年度	1	支援員派遣	檜木野裕美	医療的ケアが必要な乳幼児の親の養育力評価に関する研究	180,000
	2		渡邊 香織	少子化対策に向けたプレコンセプションケア支援プログラムの構築と戦略	180,000
	3		北村 愛子	急性心不全による活動耐性低下患者の回復を促進するための看護プログラムの開発	180,000
	4		旗持知恵子	慢性心不全患者のトランジションを支える看護コーディネーションの実態	180,000
	5		杉本 吉恵	スライディングシート・スライディングボードの使用における転落事故の可能性がある介助場面についてその実際を知る	180,000
	6		佐保美奈子	HIV 看護・介護の質の向上と学校での HIV 予防教育実践に関する研究 排泄・性機能障がいのある思春期女性の課題克服支援	180,000
	7		中嶋有加里	妊婦と乳幼児の自動車利用安全教育と看護支援	180,000
	8		古山 美穂	教育・医療・保健・福祉が連携した思春期の子どもの課題解決を図る「チーム学校」づくり -アクションリサーチを用いて-	180,000
	9		大江 理英	救命救急センターに勤務する看護師の自律性に関連する要因の検討	180,000
	10		林田 裕美	様々なライフステージにおけるがん患者の生き方をデザインする支援に関する基礎的研究 (仮)	180,000
	11		山内 加絵	ユニット型特養の看取りにおける看護・介護職の連携のための教育プログラムの構築	180,000
	12	共同研究	志田 京子	アウトリーチ型看護管理支援事業 (大阪モデル) の実施と評価	298,000
	13		富川 順子	精神病棟から退院する患者の家族を支えるための看護ケア	300,000
	15		山内 加絵	ユニット型特別養護老人ホームの看取りにおける本人・家族の意向に沿った看取りの実現に向けた多職種カンファレンスの構築	300,000
		合計金額			

資料 A-3

平成 28～30 年度 若手研究者、女性研究者、科研費特定支援、RESPECT、キーププロジェクトの獲得状況一覧

	No	区分	代表者	研究課題・活動名	助成額(円)
平成28年度	1	若手研究者	浮舟 裕介	患者との関わりで否定的感情を抱いた精神科看護師の否定的感情の内容と前向きな関わりに切り替える方略及び看護師の属性との関連	556,000
	2	女性研究者	松下由美子	独居高齢者の認知症状に早期に「気づき」医療に「つなぐ」訪問介護員のコンピテンシー	238,250
	3	RESPECT	大川 聡子	10代で出産した母親との信頼関係を構築する妊娠期からの訪問プログラムの開発	1,814,400
	4	キーププロジェクト	中村裕美子	地域の知カラをつなぐ NS-Co (ナスコ) プロジェクト	4,000,000
		合計金額			

平成 29 年度	1	女性 研究者	松下由美子	「独居高齢者の認知症状に早期に「気づき」医療に「つなぐ」訪問介護員のコンピテンシー」	289,250
	2		大川 聡子	「10代で出産した母親の育児に影響を及ぼす社会的特徴を可視化する」	1,234,400
	3	科研費 特定支援	大川 聡子	若年母親の“親育ち”を支援する妊娠期からの継続家庭訪問プログラムの開発	1,050,000
	4	キープロ ジェクト	中村裕美子	「～地域包括ケアシステムを支える人材育成とネットワーク形成によるシナジーモデルの構築～」	4,000,000
	合計金額				
平成 30 年度	1	科研費 特定支援	細田 泰子	看護学習者の臨床判断を拓くルーブリックと臨床学習環境づくり支援プログラムの開発	420,000
	2	RESPECT	伊藤 良子	日本におけるLGBTの性暴力被害に関する実証的研究	650,000
	合計金額				

法令遵守や研究者倫理等に関しては、「学術研究に係る行動規範」を定め、研究費不正防止対策として、「研究費の取扱いに関する規程」を策定している。看護学研究科における研究活動の質の向上に関する取組としては、看護学研究科研究倫理委員会および動物実験委員会がある。教員および大学院生・学類生の研究のうち、人を対象とした場合には学外の有識者を含む看護学研究科研究倫理委員会において審査を行い、承認された研究のみ実施できるようになっている。実験動物を用いた研究については、動物実験ガイドラインが定められ、研究計画書を動物実験委員会に提出し、その審査を経たもののみが実施可能となる。このように倫理的に配慮した研究を支援するための看護学研究科研究倫理委員会、動物実験に関する委員会等が整備され機能している。

【分析結果とその根拠理由】

部局長裁量経費を活用した独自のインセンティブ事業、学内インセンティブ奨励、獲得への支援により、学内外の共同研究の促進や外部資金獲得を推進し、研究活動に関する施策を遂行している。また、産学官連携制度による共同研究や受託研究の支援、外部資金の獲得とその運用、研究成果の公表・発信、研究における法令遵守と倫理性確保のための委員会が整備され、適切に実施されていると判断できる。

観点A-1-③： 研究活動の質の向上のために研究活動の状況を検証し、問題点等を改善するための取組が行われているか。

【観点に係る状況】

研究活動の状況を把握する取組としては、各教員は毎年度末に教員活動情報データベースに自己の研究活動の申告を実施している。さらに教員活動自己点検・評価報告書を提出し、自己評価を行っている。教員活動自己点検・評価報告書は、部局計画・評価委員会が、看護学研究科教員全体の評価をまとめて報告している。平成28年に公表された大阪府立大学自己点検評価報告書において、改善を要する点とされた事項について、改善方策・計画を策定している。

【分析結果とその根拠理由】

大学全体の自己点検・評価の中で研究活動の状況を検証するだけでなく、教員自らが自己の活動について点検・評価した「教員活動自己点検・評価報告書」をとりまとめ、改善計画を策定している。また、教員活動情報データベースシステムを運用し、教員の研究活動を学内外に公開するとともに、研究業績の評価を行っている。以上のことから、研究活動の質の向上のために研究活動の状況を検証し、問題点等を改善するためのシステムを適切に整備し、機能させていると判断する。

観点A-2-①： 研究活動の実施状況から判断して、研究活動が活発に行われているか。

【観点到に係る状況】

看護学研究科では、文部科学省のがんプロフェッショナル養成プラン「7 大学連携個別化がん医療実践者養成プラン」が採択され、共同参画する7大学の看護学研究科・医学研究科・薬学研究科と組織での連携教育及び研究を推進している。

看護学研究科が組織する療養学習支援研究プロジェクトでは、看護職者への教育研究の援助、地域住民を対象とした療養に関する研究・活動助成（資料A-1）を行っており、研究活動を積極的に推進している。

看護学研究科では、教育補助者（実習施設の医師、看護師、保健師、助産師）との共同研究には、毎年2～3件の共同研究助成（資料A-2）を行い、共同研究を推進している。

また、21世紀科学研究機センターに「看護経営システム研究所」「看護教育開発研究センター」を設置し、研究科の枠を超えた学際的あるいは分野横断型研究を進めている。

競争的研究資金の申請・採択状況を資料A-4に示した。科学研究費補助金の申請状況は、平成28年度43件、平成29年度35件、平成30年度36件であり、各年度の教員数からみた申請率は、平成28年度91.5%、平成29年度71.4%、平成30年度72.0%と高い水準を維持している。

資料A-4 平成28～30年度 看護学研究科の補助金の申請・採択状況(代表者のみ)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
新規申請数	25	19	22
継続申請数	18	16	15
申請数合計	43	35	36
新規採択数	7	8	5
継続採択数	1	16	15
採択合計	25	24	20
新規採択率	28.0%	42.1%	22.7%
新規+継続採択率合計	58.1%	68.6%	55.6%

(出典 看護学類・看護学研究科年報)

資料A-5 平成28～30年度 科学研究費補助金等交付者一覧

平成28年度

(研究代表者)

研究種目審査区分	氏名	獲得金額(円)	研究課題名
基盤研究(B)	中山 美由紀	3,770,000	NICU看護師に対する小児在宅療育移行支援推進プログラムの構築
基盤研究(B) X	中村 裕美子	4,160,000	Grobal人材育成のための英語版看護事例学習用eラーニングシステムの開発と評価
基盤研究(B)	上野 昌江	3,077,660	子ども虐待の世代間連鎖断ち切りに向けた妊娠期からの予防的支援の実践モデル構築
基盤研究(C)	中岡 亜希子	1,690,000	質の高い患者ケアをめざす看護師-看護補助者協働システム確立のための基礎的研究
基盤研究(C)	井上 奈々	780,000	消化のよいものから元気がでる食事へ、胃切除患者の食生活の再構築に対するアプローチ
基盤研究(C)	古山 美穂	910,000	子ども虐待予防支援のための教育・医療・保健・福祉連携協働システムの開発
基盤研究(C)	志田 京子	1,170,000	看護師の倫理的成熟とその影響要因に関する検討
基盤研究(C)	南村 二美代	1,430,000	糖尿病の開示・非開示に関する意思決定支援ツール・ガイドの開発
基盤研究(C)	旗持 知恵子	780,000	慢性心不全患者のエンオブライフに向けた意思決定支援モデルの開発
基盤研究(C)	林田 裕美	1,300,000	ホルモン療法を受ける閉経前乳がん患者の自己コントロール支援プログラムの開発と評価
基盤研究(C)	香川 由美子	545,313	がん看護専門看護師の役割遂行能力を高める臨床における継続的教育支援方法の開発
基盤研究(C)	紙野 雪香	1,300,000	ナラティブ・アプローチによる看護師のキャリア形成支援実践者育成プログラムの開発
基盤研究(C)	佐保 美奈子	1,170,000	排泄・性機能障がいのある思春期女性の課題克服支援
基盤研究(C)	大川 聡子	780,000	若年母親の“親育ち”を支援する妊娠期からの継続家庭訪問プログラムの開発
基盤研究(C)	細田 泰子	1,170,000	教育指導者育成に向けたバウンダリーレスな臨床学習環境デザイン支援プログラムの開発
基盤研究(C)	撫養 真紀子	806,561	中小規模病院の中堅看護師への職務満足度を促すAIに基づく教育プログラムの開発
基盤研究(C)	山地 佳代	780,000	中等度認知症をもつ高齢者の日常生活支援におけるアドボカシー実践ガイドラインの開発
基盤研究(C)	松下 由美子	650,000	独居高齢者の認知症状に「気づき」支援に「つなぐ」民生委員のコンピテンシー
基盤研究(C)	渡邊 香織	1,282,576	歩行動作分析に基づく妊婦のための腰痛予防プログラムの構築と効果検証
挑戦的萌芽研究	中山 美由紀	780,000	臨床における看護継続教育担当者に対する家族看護教育提供モデルの導入と評価
挑戦的萌芽研究	檜木野 裕美	910,000	慢性疾患を抱える乳幼児の親の「気になる養育」の解明とペアレンティングへの支援
挑戦的萌芽研究	上野 昌江	1,300,000	子ども虐待死を予防する虐待保健を基盤とした専門保健師の教育プログラム構築
若手研究(B)	椿(高) 知恵	650,000	日本・韓国・在日未婚カップルの家族計画に影響する価値観に関する基礎的研究
若手研究(B)	深山 華織	260,000	日中独居高齢者を支える男性介護者の仕事と介護の両立のためのセルフマネジメント
若手研究(B)	安本 理紗	1,040,000	対応困難な結核患者の生活実態と治療継続支援体制の検討
合計		32,492,110	

(研究分担者)

研究種目審査区分	氏名	獲得金額(円)	研究課題名
基盤研究(A)	紙野 雪香	130,000	生活史法による臨床物語論の構築と公共化
基盤研究(C)	細田 泰子	39,000	臨床判断を導く患者理解と看護師による患者像の口述に関する研究
基盤研究(C)	佐藤 淑子	260,000	中小規模病院における感染管理システム構築に関する研究
基盤研究(C)	細田 泰子	65,000	新人期看護師の社会人基礎力と関連要因の検討
基盤研究(C)	上野 昌江	130,000	低所得未受療国保健康診未受診者の家庭訪問での実態把握とKDBシステムによる訪問評価
基盤研究(C)	撫養 真紀子	30,560	交代性勤務が困難な短時間勤務者の活用プログラムの開発
基盤研究(C)	細田 泰子	130,000	看護系大学に所属する若手教員の学習支援力に関する研究
基盤研究(C)	井上 奈々	180,000	臨床実習における電子カルテ活用に活かせる看護師の情報収集技法のモデリング開発
基盤研究(C)	細田 泰子	65,000	子育て世代の潜在看護師に対する復職準備教育の開発と検証
基盤研究(C)	細田 泰子	52,000	新人看護師の自尊心を向上させるための教育指導担当者の指導能力育成プログラム開発
基盤研究(C)	佐藤 淑子	130,000	特別養護老人ホームにおける感染リスクマネジメント教育プログラムの開発
基盤研究(C)	山地 佳代	130,000	特別養護老人ホームにおける感染リスクマネジメント教育プログラムの開発
基盤研究(C)	旗持 知恵子	130,000	クローン病患者のセルフマネジメントの実態に基づく患者教育のプログラムの検討
基盤研究(C)	藪下 八重	130,000	クローン病患者のセルフマネジメントの実態に基づく患者教育のプログラムの検討
基盤研究(C)	中山 美由紀	130,000	卵巣予備能に影響する胎内環境要因の解明
基盤研究(C)	撫養 真紀子	65,027	急性期病棟の医療従事者に対する対象者のくらしを見据えたケアのための多職種連携教育
基盤研究(C)	上野 昌江	65,000	児童虐待予防を目的としたポピュレーションレベルの子育て支援プログラム
挑戦的萌芽研究	紙野 雪香	30,000	看護師のキャリア形成のためのナラティブ・アプローチ実践評価方法の開発
合計		1,891,587	

平成29年度

(研究代表者)

研究種目審査区分	氏名	獲得金額(円)	研究課題名
基盤研究(B)	中山 美由紀	2,470,000	NICU看護師に対する小児在宅療育移行支援推進プログラムの構築
基盤研究(B) X	中村 裕美子	2,990,000	Grobal人材育成のための英語版看護事例学習用eラーニングシステムの開発と評価
基盤研究(B)	上野 昌江	2,340,000	子ども虐待の世代間連鎖断ち切りに向けた妊娠期からの予防的支援の実践モデル構築
基盤研究(C)	古山 美德	520,000	子ども虐待予防支援のための教育・医療・保健・福祉連携協働システムの開発
基盤研究(C)	南村 二美代	1,300,000	糖尿病の開示・非開示に関する意思決定支援ツール・ガイドの開発
基盤研究(C)	篠持 知恵子	650,000	慢性心不全患者のエンドオブライフに向けた意思決定支援モデルの開発
基盤研究(C)	紙野 雪香	1,430,000	ナラティブ・アプローチによる看護師のキャリア形成支援実践者育成プログラムの開発
基盤研究(C)	佐保 美奈子	1,430,000	排泄・性機能障がいのある思春期女性の課題克服支援
基盤研究(C)	大川 聡子	827,571	若年母親の「親育ち」を支援する妊娠期からの継続家庭訪問プログラムの開発
基盤研究(C)	細田 泰子	910,000	教育指導者育成に向けたバウンダリーレスな臨床学習環境デザイン支援プログラムの開発
基盤研究(C)	山地 佳代	1,820,000	中等度認知症をもつ高齢者の日常生活支援におけるアドボカシー実践ガイドラインの開発
基盤研究(C)	松下 由美子	651,040	独居高齢者の認知症状に「気づき」支援に「つなぐ」民生委員のコンピテンシー
基盤研究(C)	渡邊 香織	649,624	歩行動作分析に基づく妊婦のための腰痛予防プログラムの構築と効果検証
基盤研究(C)	志田 京子	1,040,000	看護職を対象とした倫理的成熟に向けた教育プログラムの開発
基盤研究(C)	中岡 亜希子	1,040,000	看護チーム力を向上させる看護師・看護補助者の協働モデルの考案
基盤研究(C)	岡本 双美子	1,170,000	終末期がん患者とその家族への意思決定支援に関する看護師の教育プログラムの開発
基盤研究(C)	深山 華織	1,430,000	就労している家族介護者へのサポート状況によるワーク・ライフ・バランスへの影響
挑戦的萌芽研究	檜木野 裕美	1,040,000	慢性疾患を抱える乳幼児の親の「気になる養育」の解明とペアレンティングへの支援
挑戦的萌芽研究	上野 昌江	910,000	子ども虐待死を予防する虐待保健を基盤とした専門保健師の教育プログラム構築
挑戦的研究(萌芽)	中村 裕美子	3,120,000	高齢者の認知機能維持を図るための人型ロボットのプログラム開発
若手研究(B)	安本 理抄	780,000	対応困難な結核患者の生活実態と治療継続支援体制の検討
若手研究(B)	山田 加奈子	650,000	産後耐糖能が正常化した妊娠糖尿病既往女性への病診連携を活用した産後支援体制の確立
若手研究(B)	森本 明子	1,174,918	インスリン分泌不全者の糖尿病細小血管障害発症リスク及び予防因子の解明:前向き研究
研究活動スタート支援	富川 順子	1,429,997	統合失調症で慢性閉塞性肺疾患のある人の地域生活の特性と訪問看護ケア
合計		31,773,150	

(研究分担者)

研究種目審査区分	氏名	獲得金額(円)	研究課題名
基盤研究(B)海外	中山 美由紀	150,990	生殖科患者・医療者、医療経済面で良い心理社会的ケア、心理カウンセリングと医療連携
基盤研究(C)	細田 泰子	39,000	臨床判断を導く患者理解と看護師による患者像の口述に関する研究
基盤研究(C)	志田 京子	130,000	中小規模病院の中堅看護師への職務満足を促すAIに基づく教育プログラムの開発
基盤研究(C)	上野 昌江	130,000	低所得未受療国保健診未受診者の家庭訪問での実態把握とKDBシステムによる訪問評価
基盤研究(C)	佐藤 淑子	65,000	特別養護老人ホームにおける感染リスクマネジメント教育プログラムの開発
基盤研究(C)	山地 佳代	65,000	特別養護老人ホームにおける感染リスクマネジメント教育プログラムの開発
基盤研究(C)	長畑 多代	130,000	特別養護老人ホームにおける感染リスクマネジメント教育プログラムの開発
基盤研究(C)	細田 泰子	65,000	新人看護師の自尊心を向上させるための教育指導担当者の指導能力育成プログラム開発
基盤研究(C)	細田 泰子	65,000	看護系大学に所属する若手教員の能力形成・向上に資する教育支援の検討
基盤研究(C)	長畑 多代	390,000	特別養護老人ホームにおける看護実践能力尺度の開発と検証
基盤研究(C)	松下 由美子	130,000	認知症高齢者のEoLに関する複合的エビデンスに基づいたガイドラインプロジェクト
基盤研究(C)	中山 美由紀	130,000	卵巣予備能に影響する胎内環境要因の解明
基盤研究(C)	上野 昌江	65,000	児童虐待予防を目的としたポピュレーションレベルの子育て支援プログラム
挑戦的萌芽研究	紙野 雪香	325,000	看護師のキャリア形成のためのナラティブ・アプローチ実践評価方法の開発
合計		1,879,990	

平成30年度

(研究代表者)

研究種目審査区分	氏名	獲得金額(円)	研究課題名
基盤研究(B)	森本 明子	3,330,000	糖尿病重症化予防のための労働因子の解明と新戦略の構築:大規模職域コホート研究
基盤研究(B)	中山 美由紀	1,620,000	NICU看護師に対する小児在宅療育移行支援推進プログラムの構築
基盤研究(B)	上野 昌江	1,950,000	子ども虐待の世代間連鎖断ち切りに向けた妊娠期からの予防的支援の実践モデル構築
基盤研究(C)	徳岡 良恵	780,000	EGFRTKI投与を受ける肺がん患者が自己評価を行う皮膚障害予防プログラムの開発
基盤研究(C)	根来 佐由美	1,430,000	地域特性別にみたフレイル高齢者の実態と予防行動促進に向けた支援モデルの構築
基盤研究(C)	紙野 雪香	1,170,000	ナラティブ・アプローチによる看護師のキャリア形成支援実践者育成プログラムの開発
基盤研究(C)	細田 泰子	1,550,378	教育指導者育成に向けたバウンダリーレスな臨床学習環境デザイン支援プログラムの開発
基盤研究(C)	山地 佳代	1,430,000	中等度認知症をもつ高齢者の日常生活支援におけるアドボカシー実践ガイドラインの開発
基盤研究(C)	志田 京子	1,430,000	看護職を対象とした倫理的成熟に向けた教育プログラムの開発
基盤研究(C)	中岡 亜希子	910,000	看護チーム力を向上させる看護師・看護補助者の協働モデルの考案
基盤研究(C)	岡本 双美子	1,950,000	終末期がん患者とその家族への意思決定支援に関する看護師の教育プログラムの開発
基盤研究(C)	深山 華織	910,000	就労している家族介護者へのサポート状況によるワーク・ライフ・バランスへの影響
基盤研究(C)	九津見 雅美	860,464	血友病医療における病院と在宅をつなぐ看護ケアの検証
基盤研究(C)	益 加代子	921,758	インドネシア人看護師候補者の就労に関する現状把握と就労研修モデルの開発
若手研究	富田 亮三	1,430,000	初期キャリア形成期看護師におけるピア・コーチングの関連要因の探索
若手研究	高 知恵	1,430,000	我が国の少子化対策に貢献する在日コリアンコミュニティの家族形成の実態解明
若手研究(B)	安本 理抄	1,300,000	対応困難な結核患者の生活実態と治療継続支援体制の検討
若手研究(B)	山田 加奈子	1,170,000	産後耐糖能が正常化した妊娠糖尿病既往女性への病診連携を活用した産後支援体制の確立
挑戦的研究(萌芽)	中村 裕美子	1,950,000	高齢者の認知機能維持を図るための人型ロボットのプログラム開発
研究活動スタート支援	富川 順子	1,300,000	統合失調症で慢性閉塞性肺疾患のある人の地域生活の特性と訪問看護ケア
合計		28,822,600	

(研究分担者)

研究種目審査区分	氏名	獲得金額(円)	研究課題名
基盤研究(B)海外	中山 美由紀	1,349,010	生殖科患者・医療者、医療経済面で良い心理社会的ケア、心理カンセリングと医療連携
基盤研究(C)	中岡 亜希子	312,000	看護組織におけるレジリエンスの探求:変革しつつ看護を貫く組織のPotential
基盤研究(C)	上野 昌江	130,000	家族介護者への生活習慣病・介護予防のための健康把握とKDBシステムによる支援評価
基盤研究(C)	篠持 知恵子	260,000	クローン病患者のセルフマネジメントの実態と関連する要因
基盤研究(C)	田嶋 長子	104,000	ICTを活用したうつ病者家族支援システムの構築と評価
基盤研究(C)	北村 愛子	65,000	救急・集中治療領域の非がん患者を対象とした看護師の穏和ケア教育活動推進モデル開発
基盤研究(C)	上野 昌江	65,000	青年期のメンタルヘルスへの早期介入プログラム導入とその評価についての研究
基盤研究(C)	益 加代子	163,799	准看護師制度の現状分析にもとづく新たな看護職養成・資格制度モデルの開発
基盤研究(C)	志田 京子	129,989	中小規模病院の中堅看護師への職務満足を促すAIに基づく教育プログラムの開発
基盤研究(C)	長畑 多代	65,000	特別養護老人ホームにおける看護実践能力尺度の開発と検証
基盤研究(C)	細田 泰子	78,000	新人看護師の自尊心を向上させるための教育指導担当者の指導能力育成プログラム開発
基盤研究(C)	中山 美由紀	65,000	卵巣予備能に影響する胎内環境要因の解明
基盤研究(C)	細田 泰子	65,000	看護系大学に所属する若手教員の能力形成・向上に資する教育支援の検討
挑戦的萌芽研究	紙野 雪香	150,000	看護師のキャリア形成のためのナラティブ・アプローチ実践評価方法の開発
合計		3,001,798	

平成 28～30 年度 厚生労働科学研究費補助金一覧
平成 28 年度

事業名	研究分担者	研究課題名	補助金額 (円)
エイズ対策政策研究事業	佐保 美奈子	HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究	800, 000
医薬品・医療機器等レギュラ ートリーサイエンス政策研 究事業	大川 聡子	効果的な献血推進および献血教育方策に関する 研究	300, 000
成育疾患克服等次世代育成 基盤研究事業	上野 昌江	妊婦健康診査および妊娠届を活用したハイリス ク妊産婦の把握と効果的な保健指導のあり方に 関する研究	300, 000

平成 29 年度

事業名	研究分担者	研究課題名	補助金額 (円)
エイズ対策政策研究事業	佐保 美奈子	HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究	800, 000
医薬品・医療機器等レギュラ ートリーサイエンス政策研 究事業	大川 聡子	効果的な献血推進および献血教育方策に関する 研究	400, 000
成育疾患克服等次世代育成 基盤研究事業	上野 昌江	妊婦健康診査および妊娠届を活用したハイリス ク妊産婦の把握と効果的な保健指導のあり方に 関する研究	300, 000

平成 30 年度

事業名	研究分担者	研究課題名	補助金額 (円)
エイズ対策政策研究事業	佐保 美奈子	HIV 看護・介護の質の向上と学校での HIV 予防教 育実践に関する研究	1, 500, 000

【分析結果とその根拠理由】

看護学研究科では、独自の研究を行うとともに、共同研究や受託研究、地域との研究連携が数多く行われており、外部資金獲得にも積極的に取り組んでいる。また、科学研究費補助金への申請件数、研究発表の件数も高い水準を維持できている。

以上のことから、研究活動の実施状況から見て、研究活動を活発に行っていると判断する。

観点A-2-②： 研究活動の成果の質を示す実績から判断して、研究の質が確保されているか。

【観点に係る状況】

競争的資金の獲得状況として、科学研究費補助金の採択件数については、平成28年度は46件(35,884,000円)、平成29年度は41件(35,153,000円)、平成30年度は35件(33,324,000円)、となっている。平成28～30年度科学研究補助金交付者一覧を資料A-5に示した。その他、財団による助成などがある。競争的資金の獲得状況に関して、採択率は平成29年度漸増し、獲得件数は年度ごとの増減はあるものの高い水準を維持している。

学術論文数は、平成28～30年度の平均が37.47件(平成28年度：39.79件、平成29年度：38.81件、平成30年度：33.82件)、学会発表は同平均が95.85件(平成28年度：88.61件、平成29年度123.12件、平成30年度：75.81件)であった。教員数の減少や異動により年度による増減が見られるが、一人あたり学術論文発表数平均0.87件、学会発表数2.23件の活動を維持している。

看護学分野において、学会賞を設けている学術集会は非常に少ないなか平成28年度は1件、平成29年度は5件、平成30年度は1件である。

【分析結果とその根拠理由】

研究活動の実績および競争的資金の獲得状況は文部科学省が公表している公立看護系大学に比べて多く、研究の質は、外部資金の獲得状況等からみて、確保されていると判断する。

観点A-2-③： 社会・経済・文化の領域における研究成果の活用状況や関連組織・団体からの評価等から判断して、社会・経済・文化の発展に資する研究が行われているか。

【観点に係る状況】

看護学研究科が組織している療養学習支援センターでは、教員の研究成果をもとに、プロジェクト活動や健康フェアを開催している。プロジェクト活動には多数の参加者を集め、健康フェアも毎年開催され、地域での活動が定着し、拡大しており、地域住民の健康づくりに貢献している。また、療養学習支援センター主催による看護フォーラムを毎年開催し、看護専門職者育成に向けた啓蒙活動や課題提供などにも貢献している。

看護学研究科の教員は、厚生労働省、独立行政法人国立病院機構、地方独立行政法人大阪府立病院機構、大阪府および府下市町村、看護協会等の審議会に積極的に参画し活動を行っている。

また、府大講座、出前講義を実施し、療養学習支援センターにおける地域住民を対象とする健康教室、講座等において、より地域社会に密着したサービスを展開し、貢献している。

【分析結果とその根拠理由】

多数の教員がそれぞれの専門分野の学識経験者として審議会等に参画している。

また、地域の学校への教員派遣、一般府民を対象にしたプロジェクト活動や公開講座などにより、保健、医療、福祉に関する研究成果の社会への還元を行っている。

以上より、社会・経済・文化の領域における研究成果の活用状況や関連組織・団体からの評価等から判断して、社会・経済・文化の発展に資する研究が行われていると判断する。

(2) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況は極めて良好である

(3) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

○個々の教員や教員グループによる特色ある研究や質の高い研究を推進するため、「部局長裁量経費」を戦略的・重点的配分経費として措置し、「療養学習支援センター研究・活動助成」「共同研究」「支援員派遣助成」などの部局内のインセンティブにより研究活動が推進されている。

○科研費の申請、採択率について年度ごとの変化はあるものの、文部科学省が公表している公立看護系大学と比較して、研究活動の実績および競争的資金の獲得状況とも高い水準を維持している。

【改善を要する点】

○科研費等の外部資金獲得状況は高い水準を維持しているが、申請、採択件数のさらなる増加と分野横断型、部局横断型の大型外部資金の獲得を目指す必要がある。

IV 選択評価事項B 地域貢献活動の状況

1 選択評価事項B 「地域貢献活動の状況」に係る目的

本学は、学則第1条に「地域社会及び国際社会における文化や生活の向上、産業の発展並びに人々の健康と福祉の向上に貢献することを目的とする」と規定している。また、平成20年に策定した「公立大学法人大阪府立大学の将来像」の中で、基本理念として「高度研究型大学～世界に翔く地域の信頼拠点～」を掲げ、教育・研究・社会貢献・大学経営の方針を示している。社会貢献については、「これまでに培った『地域の知の創造拠点』としての地域・行政との関わりを基盤に、高度研究型大学でなくては実現できない社会貢献をめざす」こととし、①府民の生涯学習へのニーズの増大に応え生涯学習拠点としての役割を強化することを目指す「生涯学習拠点の提供」、②圏域に集積する中小企業の発展に資することを目指した産学官連携による「地域経済活性化への貢献」、③環境、食の安心・安全、健康・医療、格差問題等など様々な都市型の課題に直面している大阪のこうした地域課題の解決に資することを目指した「シンクタンク機能の提供」等を推進することとしている。

第1期中期目標〔期間：平成17（2005）～22（2010）年度〕においても、「社会人に開かれた大学」として、府民の生涯学習へのニーズの増大に応えることを目指して、質の高い公開講座の提供や講座数の提供増などを、また「産学官連携の推進」として、民間のニーズに即したプロジェクト研究等の推進、知的財産マネジメント活動や共同研究・受託研究の件数増などを、そして「府政との連携」としてシンクタンクの機能の強化や人事面での連携などを、社会貢献等に関する目標として掲げ、地域貢献に取り組んできた。

第2期中期目標期間〔平成23（2011）～28（2016）年度〕、第3期中期期間〔平成29（2017）～34（2022）年度〕においてもこれらの目的や方針等を継承しつつ、現在の第3期中期目標では、地域・産業界との強い連携のもと大阪のイノベーションを牽引できる高度研究型大学となるよう、地域貢献活動に関する目標を次のように定めている。

①研究成果の発信と還元による産業活性化への貢献

大阪府立大学の研究成果を広く発信・社会還元をし、地域社会・世界の発展に貢献する。実学に強みがある大阪府立大学の特徴を活かし、特に産学連携の取組の強化を通じて、大阪の産業活性化に貢献する取組を推進する。

②生涯教育の取組の強化

府民・地域の生涯学習ニーズに対応するため、適正な受益者負担のもと大阪府立大学の知的資源を活用し、多様で質の高い生涯教育を受ける機会を提供する。また、交通の利便性を活かした都市部サテライトでの社会人向け公開講座の実施など、社会人の学習の場の提供に努める。

③地方自治体など諸機関との連携の強化

大阪府、府内市町村等との連携を強化し、具体的な政策課題等に対応した共同研究・共同事業を実施するなど、「大阪のシンクタンク」としての役割を果たす。また、大阪府の関係機関との人的・技術的な連携協力を進めるとともに、公的研究機関や国・諸外国の関係機関などと連携することにより、地域社会の課題の解決に貢献する。

2 選択評価事項B 「地域貢献活動の状況」の自己評価

(1) 観点ごとの分析

観点B-1-①： 大学の地域貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。

【観点到係る状況】

看護学研究科においては、組織として部局計画・評価委員会を設置しており、地域貢献活動についてもその中で計画している。平成28年度には自己点検・評価報告書を作成し、大学のWebサイトで計画とその評価を公表している。

また、看護学研究科が有する療養学習支援センターにおける地域貢献活動については、療養学習支援センター運営委員会を設置しており、看護学研究科年報や療養学習支援センター年報により、目的や計画を公表している。

【分析結果とその根拠理由】

地域貢献活動については、本学の第3の社会的使命として位置づけられており、看護学研究科においては、部局計画・評価委員会や看護学研究科が有する療養学習支援センター運営委員会において計画し、取り組みを行っている。

また、これらの目的や計画については、ホームページにより広く公表している。

以上のことから、地域貢献活動の目的・計画の公表・周知がなされていると判断する。

観点B-1-②： 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

【観点到係る状況】

1. 審議会等への参画状況

看護学研究科に所属する教員は、保健、医療、福祉などの分野と関連を保ち、専門看護や専門基盤についての研究・教育に携わりながら、審議会等に積極的な参画が行われている。参画する審議会等の公的団体としては、厚生労働省、独立行政法人国立病院機構、地方独立行政法人大阪府立病院機構、大阪府または府下市町村、看護協会、各教員が所属する学会等である。(資料B-1)

資料B-1 審議会等への参画状況（人）

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度
国	1	1	4
大阪府	3	5	8
他府県	51	88	100
市町村（府内）	21	26	29
公共機関（府内）	35	94	105
計	111	214	246

(各年末在任中延べ人数)

(出典 事務局資料)

教育機関、病院などの研修会講師等への参画状況（人）

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度
教育機関	8	20	17
職能団体	21	29	31
病院	20	13	18
市町村	2	2	3
行政	9	13	8
企業・その他	5	7	3
計	65	84	85

(各年末在任中延べ人数)

(出典 事務局資料)

2. 公的団体の抱える課題への対応

公的団体が抱える課題への対応としては、病院看護師の看護研究における指導や支援、保健所や市町村が抱える課題への助言を行った。また、課題に対応した研究として、病院における看護上の具体的なケアに関する研究や育児支援や介護問題にかかる研究が行われた。

3. 共同研究可能内容の公表

本学が主催する産学官連携フェアや科学技術振興機構（JST）の新技术説明会、他機関のマッチングフェア等で本学の技術シーズを広く紹介するとともに、毎年度、技術シーズをまとめた冊子を発行し、ホームページでシーズの公開を行っている。また、看護学研究科においてはリサーチミニストレーター・コーディネーターが定期的に羽曳野キャンパスに来学し、共同研究可能内容や共同研究先について助言を行っている。

4. 産学官連携推進体制

産学官連携の中心的組織として、研究推進本部 研究推進課に、リサーチアドミニストレーションセンター（以

下、「URAセンター」という。)及び知的財産マネジメントオフィスを設置している。URAセンターでは、リサーチ・アドミニストレーターが複合・融合型の研究プログラムの戦略企画に取り組み、競争的資金や企業との連携による外部資金の獲得を積極的に支援し、先端的な基礎研究や企業との共同研究をコーディネートするなど、イノベーションの創出や研究成果の還元による社会貢献を活発に進めている。知的財産マネジメントオフィスでは、特許の権利化を図るなど、知的財産の保護・管理・活用を推進している。

看護学研究科では、研究推進課から研究助成の広報・申請手続き・予算執行等、療養学習支援センターにおける地域社会との連携等が、組織的に行われている。リサーチミニストレーター・コーディネーターが定期的に羽曳野キャンパスに来学し、産学官連携推進の助言を行っている。

5. 共同研究、受託研究等の実施状況

看護学研究科が独自に実施している共同研究助成として、療養学習支援センター研究・活動助成、実習施設等との共同研究補助金がある。それ以外の共同研究、受託研究などの実施状況を資料B-2に示す。

資料B-2 共同研究、受託研究等の実施状況 (円)

年度	共同研究費 受託研究費		補助金等		その他研究助成	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
平成28年度	2	1,054,000	7	4,757,000	1	980,000
平成29年度	2	500,000	7	1,800,000	2	4,031,000
平成30年度	2	0	3	2,799,984	2	4,031,000

6. 社会人向け教育プログラム及び生涯教育ニーズへの対応

社会人向けの教育プログラムの提供等の受け入れ体制として、科目等履修生、大学院研究生、長期履修生制度がある。

看護学類では、高等学校を卒業した者またはそれと同等以上の学力があると認められた者が看護学類の授業科目を履修することのできる科目等履修生を毎年度、前期・後期の計2回募集している。看護学研究科では、看護系大学院修士課程又は博士前期課程を修了した者が、看護学研究科の講義科目を履修することのできる科目等履修生を毎年度、前期・後期の計2回募集している。また大学卒業見込みまたはこれと同等以上の学力があると認められた者が研究について指導を受けることのできる大学院研究生を毎年度、前期・後期の計2回募集している。職業を有している等の事情により、標準修業年限での教育課程の履修が困難な学生を対象として、標準修業年限を超えて計画的に履修し、教育課程を修了することにより、学位を取得することができる長期履修生制度を整備している。

また、羽曳野図書センターでは、図書センター運営委員会の基に、大阪府内在住・在勤の医療関係者、他大学学生・教職員のみならず、広く一般の方々に対しても図書館を利用できるシステムがとられ、ホームページによ

って周知されており、多くの対象者が利用している。

生涯教育ニーズへの対応として、看護学類では府大講座、出前講義を毎年実施している。

府大講座は、本大学全学類の分担により開催している。その概要を資料B-3に示した。

平成28年度は8月18日(木)、25日(木)、9月1日(木)、8日(木)、15日(木)全5日間(10講義)の日程で開催し、看護学研究科は9月8日の第1講義を担当した。講師は撫養真紀子准教授、講義題名は「2025年問題を考える」であった。

平成29年度は10月16日(月)、23日(月)、30日(月)、11月6日(月)、13日(月)、全5日間(10講義)の日程で開催し、看護学研究科は10月30日の第2講義を担当した。講師は田中京子教授、講義題名は「がん予防について考えよう」であった。

平成30年度は9月6日(木)、13日(木)、20日(木)、27日(木)全4日間(8講義)の日程で開催し、看護学研究科は9月27日の第2講義を担当した。講師は上野昌江教授、講義題名は「「一無・二少・三多」の健康習慣」であった。

出前講義は「教員活動情報データベース」に出前可能項目を掲載することで公表され、地域社会からのニーズに対応している。その概要を資料B-4に示した。平成28年度は看護学研究科から延べ13名の教員が対応した。平成29年度は看護学研究科から延べ17名の教員が対応した。平成30年度は看護学研究科から延べ16名の教員が対応した。

本学類・研究科で開催する公開講座は、すべて地域に在住する社会人のための教育機会として提供されている。

資料B-3 平成28～30年度府大講座 看護学研究科の担当講義

平成28年度府大講座 8月18日～9月15日 (全10講義)	9月8日 第1講義 講師： 撫養真紀子准教授 講義： 2025年問題を考える
平成29年度府大講座 10月16日～11月13日 (全10講義)	10月30日 第2講義 講師： 田中京子教授 講義： がん予防について考えよう
平成30年度府大講座 9月6日～9月27日 (全8講義)	9月27日 第2講義 講師： 上野 昌江教授 講義： 「一無・二少・三多」の健康習慣

資料B-4 平成28～30年度 看護学研究科出前講義

平成28年度	平成28年6月1日 河内長野市立市民交流センター 講師： 佐保 美奈子 准教授 講義： セクシュアリティ概論～性とは、こころが生きること～ 平成28年6月2日 大阪商業大学高等学校 講師： 佐保 美奈子 准教授 講義： おつきあいのマナー 平成28年6月23日 大阪府立阪南高等学校
--------	---

	<p>講師： 高 知恵 助教 講義： 性教育講座 生と性について学ぶ 平成 28 年 7 月 1 日 大阪府立守口支援学校 高等部 講師： 古山 美穂 講師 講義： 性教育一妊娠・出産について 平成 28 年 7 月 11 日 大阪府教育センター附属高等学校 講師： 古山 美穂 講師 講義： これからの自分探し 平成 28 年 7 月 12 日 大阪夕陽丘学園高等学校講堂 講師： 佐保 美奈子 准教授 講義： 自分を大切にする生と性の教育 2 平成 28 年 9 月 29 日 奈良県立平城高等学校 講師： 岡本 双美子 准教授 講義： 在宅で看取るとは 平成 28 年 10 月 7 日 大阪府立東百舌鳥高等学校 講師： 伊藤 良子 講師 講義： 性暴力・DV・デート DV について 平成 28 年 11 月 16 日 大阪府東住吉総合高等学校 講師： 古山 美穂 講師 講義： 性と人権 平成 28 年 11 月 16 日 大阪府立懐風館高等学校 講師： 中嶋 有加里 准教授 講義： 看護に関する実習 平成 29 年 1 月 26 日 大阪府立今宮高等学校 講師： 高 知恵 助教 講義： こころとからだの健康づくり 平成 29 年 1 月 26 日 大阪府立堺東高等学校 講師： 山田 加奈子 講義： 性教育講演会 「大切なからだところろ ～デート・バイオレンス予防をとおして～」 平成 29 年 2 月 2 日 大阪府立大手前高等学校 講師： 山田 加奈子 講義： デートDVについて</p>
平成 29 年度	<p>平成 29 年 6 月 1 日 大阪府立四条畷高校 講師： 古山 美穂 講師 講義： 「人の命、心の命を生み育むこと」 平成 29 年 6 月 8 日 大阪商業大学高等学校 講師： 佐保 美奈子 准教授 講義： 「おつきあいのマナー」</p>

<p>平成 29 年 6 月 22 日 大阪府立北淀高等学校 講師： 佐保 美奈子 准教授 講義： 「自分も相手も大切にしている関係について学ぶ」</p> <p>平成 29 年 6 月 22 日 大阪府立北淀高等学校 講師： 古山 美穂 講師 講義： 「自分も相手も大切にしている関係について学ぶ」</p> <p>平成 29 年 6 月 29 日 大阪府立阪南高等学校 講師： 高 知恵 助教 講義： 「これからの自分探し」</p> <p>平成 29 年 7 月 10 日 大阪府立堺東高等学校 講師： 佐保 美奈子 准教授 講義： 「自立支援コース 性教育講座」</p> <p>平成 29 年 7 月 11 日 大阪府教育センター附属高等学校 講師： 古山 美穂 講師 講義： 「これからの自分探し」</p> <p>平成 29 年 7 月 31 日 吹田市立教育センター 講師： 佐保 美奈子 准教授 講義： 「セクシャルマイノリティ」</p> <p>平成 29 年 9 月 6 日 大阪府立東百舌鳥高等学校 講師： 伊藤 良子 講師 講義： 「性差別・デートDV・性暴力」</p> <p>平成 29 年 9 月 28 日 奈良県立平城高等学校 講師： 杉本 吉恵 講義： 「看護の魅力」</p> <p>平成 29 年 11 月 2 日 大阪府立交野高等学校 講師： 古山 美穂 講師 講義： 「あなたがいるということ」</p> <p>平成 29 年 11 月 8 日 和歌山県立向陽高等学校 講師： 田嶋 長子 教授 講義： 「ストレス対処」</p> <p>平成 30 年 1 月 25 日 大阪府立今宮高等学校 講師： 高 知恵 助教 講義： 「男女のおつきあいのマナーとデートバイオレンスの予防」</p> <p>平成 30 年 1 月 25 日 大阪府立堺東高等学校 講師： 山田 加奈子 講師 講義： 「生と性の授業」</p> <p>平成 30 年 1 月 29 日 大阪府立成美高等学校 講師： 佐保 美奈子 准教授</p>

	<p>講義： 「自分を大切にするおつきあいのマナー」 平成 29 年 1 月 29 日 大阪府立成美高等学校 講師： 古山 美穂 講師</p> <p>講義： 「自分を大切にするおつきあいのマナー」 平成 29 年 2 月 1 日 大阪府立大手前高等学校 講師： 山田 加奈子 講師</p> <p>講義： 「生と性の授業 (デートDV)」</p>
平成 30 年度	<p>平成 30 年 6 月 6 日 大阪府立夕陽丘高等学校 講師： 杉本 吉恵 教授 講義： 看護の仕事</p> <p>平成 30 年 6 月 21 日 大阪府立みどり清朋高等学校 講師： 高 知恵 助教 講義： 性についてちゃんと知ろう</p> <p>平成 30 年 6 月 28 日 大阪府立阪南高等学校 講師： 高 知恵 助教 講義： 性についてちゃんと知ろう</p> <p>平成 30 年 9 月 27 日 奈良県立平城高等学校 講師： 杉本 吉恵 教授 講義： 看護の魅力</p> <p>平成 30 年 10 月 11 日 大阪府教育センター附属高等学校 講師： 古山 美穂 准教授 講義： 保健講話「これからの自分探し」</p> <p>平成 30 年 10 月 31 日 大阪府立東百舌鳥高等学校 講師： 伊藤 良子 講師 講義： 性差別・デートDV・性暴力・LGBT について</p> <p>平成 30 年 11 月 1 日 大阪府立東百舌鳥高等学校 講師： 伊藤 良子 講師 講義： 性差別・デートDV・性暴力・LGBT について</p> <p>平成 30 年 11 月 15 日 大阪府立交野高等学校 講師： 古山 美穂 准教授 講義： あなたがいるということ</p> <p>平成 30 年 11 月 21 日 大阪府立懐風館高等学校 講師： 中嶋 有加里 准教授 講義： 看護と助産のしごと</p> <p>平成 30 年 11 月 22 日 大阪府立緑風冠高等学校 講師： 古山 美穂 准教授 講義： 健康なからだを心を支える現場から伝えたいこと</p> <p>平成 30 年 11 月 29 日 大阪府立柴島高等学校 講師： 佐保 美奈子 准教授</p>

講義： 性に関するHR 平成30年12月13日 大阪府立貝塚高等学校 講師： 佐保 美奈子 准教授 講義： 性感染症予防（HIV/AIDS）について 平成31年1月24日 大阪府立今宮高等学校 講師： 高 知恵 助教 講義： 男女のおつきあいのマナーとデートバイオレンスの予防 平成31年1月31日 大阪府立堺東高等学校 講師： 山田 加奈子 講師 講義： 生と性の授業 平成31年2月4日 姫路市中央保健センター 講師： 大川 聡子 准教授 講義： 保健師記録の書き方 平成31年2月13日 大阪府立大手前高等学校 講師： 山田 加奈子 講師 講義： デートDVについて

7. 青少年向け教育プログラム

青少年の学習意欲に応えた教育サービスの提供については、大阪府立大学高大連携推進委員会によって実施されている。平成28～30年度は、高校生・他大学学生が受講できる科目として看護学類で開講している授業科目「セクシュアリティと看護」（1単位15時間）を提供した。平成30年度の受講者は18名（高校生16名、他大学学生2名）であり、受講終了後に修了証が交付された。（資料B-5）

資料B-5 「セクシュアリティと看護」講義概要

1. 開講日時	平成30年11月16日 ～ 平成31年1月25日（5限目 全7回） 羽曳野キャンパス L402 講義室
2. 対象	高校2年生（看護学類1年次生、2年次編入生と一緒に講義を受ける）、他大学学生
3. 講義内容	ヒューマンセクシュアリティについて理解を深め、人間の性、生き方を洞察しながら自己のセクシュアリティ観を育むことを目指しています。 <ul style="list-style-type: none"> ・ヒューマン・セクシュアリティの概念を学ぶ ・自己のセクシュアリティについて考える ・現代社会におけるセクシュアリティの問題・課題を認識できる

8. 療養学習支援センターの活動状況

療養学習支援センターは、大学院看護学研究科の附置研究所として位置付けられ、療養学習支援に関する研究・教育、実践、情報提供、学术交流を図ることを目的としている。地域貢献活動として、プロジェクト活動、闘病記文庫の充実、健康フェアの開催を行った。

プロジェクト活動では、療養学習支援センターに来所する教室として「脳いきいき教室」「前向き子育てプログラム」を開催した。また、当事者や家族の集まりとして「肺がん患者さんのご家族のためのサロン」「ホッと&ハートの会」を開催した。年間通じて延べ500名程度のプロジェクトへの参加者があり、地域での活動が定着し、拡大してきている。

闘病記文庫は、羽曳野図書館センター内に開架し、学生や市民に利用されている。新刊図書を購入し、活動の充実に努めている。

平成30年度の健康フェアは、平成30年10月27日（土）に羽曳野キャンパス祭（杏樹祭）に合わせて、開催した。参加者は周辺地域から70名あり、身体測定（体組成、骨密度、血圧など）、動脈硬化度、脳年齢測定、食育SAT、ストレスチェック、ゴムバンド体操、健康相談を行った。地域の健康づくりに貢献することができている。

療養学習支援センターの活動に関する報告は年報として刊行し、ウェブサイト公開している。以上のことから、療養学習支援センターにおける地域への教育サービス活動の成果は上がっている。

【分析結果とその根拠理由】

各種審議会に積極的に参画し、研修会講師等として専門職の質向上や公的団体の抱える課題への対応に貢献している。共同研究が可能な内容を積極的に公表し、共同研究も適切に行われている。また、社会人に対する教育プログラム等の体制は、各種の委員会規程、羽曳野図書館センターのサービス状況から整備されており、生涯教育ニーズへの対応についても公開講座、出前講義の開催状況、参加状況から適切に行われ、青少年向け教育プログラムの提供もしている。さらに療養学習支援センターにおいて、地域住民に向けた多様なプログラムを継続して展開しており、生涯学習ニーズに適切に対応し、地域貢献活動に十分な成果を上げていると判断する。

観点B-1-③： 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。

【観点に係る状況】

看護学研究科では、大学の使命の一つである「地域社会への貢献」に則した生涯教育の面から評価した場合、公開講座は教育展開委員会、国際交流は国際交流委員会、療養学習支援センター運営委員会が中心に担当し、毎年定期的に企画、立案、案内、実施している。公開講座等は多数の参加数を確保しており、一般地域住民からの一定の評価を得ていると考える。マヒドン大学との交流協定の更新、オレゴンヘルスサイエンス大学との学術交流協定の締結といった国際交流も活発であり、その成果として国際看護セミナーの開催等に繋がっている。国際看護セミナーは、対象が主として看護系専門職者であるが、毎年定期的に実施されており、専門職者から高い評価を得ている。療養学習支援センターの活動や羽曳野図書館センターの体制や利用状況からみても、看護学研究科において、地域社会貢献活動の成果は良好であるといえる。また、地域貢献活動の成果については、教員活動情報データベースにおいて、学内外へ発信している。看護学類および看護学研究科における独自の地域貢献活動成果の発信や刊行のための組織として、広報委員会および紀要委員会、療養学習支援センター運営委員会があり、定期的な成果を刊行している（「大阪府立大学看護学部紀要/大阪府立大学看護学雑誌」「療養学習支援センター年報」）。

【分析結果とその根拠理由】

地域貢献活動である公開講座や国際交流は、毎年定期的に企画、立案、案内、実施している。公開講座等は多数の参加数を確保しており、療養学習支援センターの活動や羽曳野図書センターの体制や利用状況からみても、看護学研究科は、地域社会貢献活動の成果は良好であるといえる。

観点B-1-④： 改善のための取組が行われているか。

【観点到係る状況】

看護学研究科では質・量ともに充実した社会貢献活動を行っており、自己点検・評価等において活動の状況を検証している。各種講座やセミナー等の個別の取り組みにおいては、参加者のアンケートを行い、記載された意見や要望等を踏まえ、内容や開催時期、回数等を検討し、必要な改善を行っている。

【分析結果とその根拠理由】

自己点検・評価等の中で社会貢献活動の状況を検証している。また個別の取組においても、課題管理やアンケート意見の反映、取組の妥当性の検証・改善等を実施している。
以上のことから、本観点を満たしていると判断する。

(2) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況は極めて良好である

(3) 優れた点及び改善を要する点**【優れた点】**

- 国、地方自治体、保健医療福祉にかかわる公共機関など多くの諸機関において、審議会への参画や研修会講師として連携し、優れた成果を上げており、シンクタンクとしての機能を十分に果たしている。
- 社会人向け教育プログラム及び生涯教育ニーズへの対応において、特に高校生に向けた出前講義を活発に行っており、青少年の教育ニーズに応えている。
- 療養学習支援センターにおいて、地域住民に向けた多彩な健康教室および健康相談を開催しており、地域の健康づくりに貢献している。また、看護専門職向けのセミナーや研究会を開催し、学習ニーズに応えるとともに質の向上にも寄与している。

【改善を要する点】

特になし